

②6 教員が授業として行う水災害防災教育と大学生と連携した分かり易い教材開発

受賞機関 国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所

キーワード ソフト施策、防災教育、教材の作成、学校と連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

国の職員が小学校や大学と協働し、小・中学生向けの優れた防災教育ツールを作成した取組み。

教育現場の課題を踏まえ、イラストやキャラクターの活用など、児童・生徒がわかりやすいことに加え、指導計画の作成や教材のパッケージ化など、教員の負担を減らすことにも取り組み、教員が自ら授業として行うことができる水害の防災教育を実現させ、「水防災意識社会の再構築」に貢献した点が評価された。

1. はじめに

これまでの防災教育は、主に行政の防災担当者等による出前講座が中心であった。しかし、出前講座だけでは全ての学校に対応することは困難であり、継続的に学習していくことができない。そのため、新たな方法として教員が自ら授業として行う防災教育の取組みを始めた。

2. 事業の概要

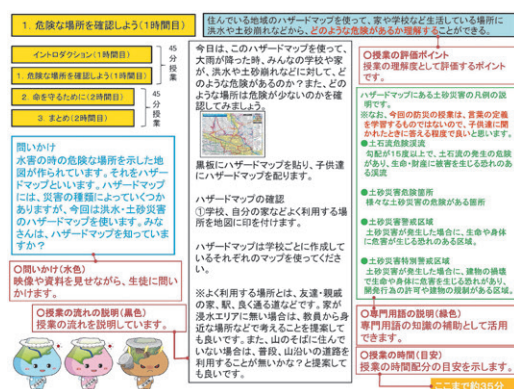
学校教育現場は防災以外にも学ぶ分野が多く、新しいことを取り入れることが困難という現状があった。そこで、教員と連携し、学校教育現場のニーズ等を把握し、指導計画・教材を作成した。

さらに、防災用語は理解しづらく、行政の防災担当者の方が分かり易く考えた資料でも専門用語等が入ると上手く伝わらないことがある。こうした専門用語を分かり易く表現するために日常防災に関わっていない人に協力してもらうことが大切と考え、教員を目指す大学生と連携し、一般の人にも分かり易い教材の開発を行った。

3. 事業の成果

1) 教員用の指導計画・教材パッケージの作成

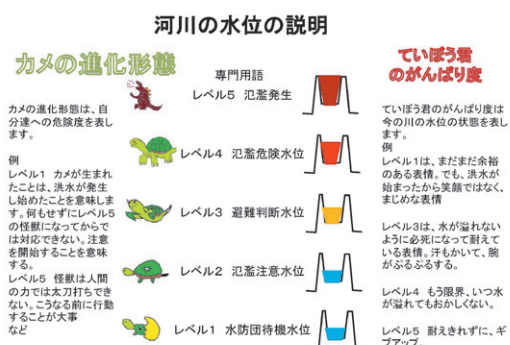
静岡県島田市教育委員会の協力で、防災教育の試行授業を小学校で実施した。この授業を踏まえ、教員の負担軽減のためには、理科などの授業ですぐに使える映像等の提供が有効と分かり、5年生の理科の学習内容を視覚的に理解できるよう、洪水による侵食の映像等を作成した。また、教員が取り組み易いように指導計画を作成し、これらの教材に試行授業の映像などを追加し、教員が短時間で授業をイメージし、自ら授業出来るよう工夫した教材パッケージを整えた。



教員用の指導計画

2) 大学生と連携した分かり易い教材開発

水防災教育教材の作成において、地元の大学に協力してもらい、大学の講義の中で教材の開発を行った。講義には職員も参加し、大学生と理解しやすい表現や手法について検討を重ねた。この取組みでできた教材のひとつで、氾濫危険水位など一般の人が理解しづらい用語を危険度に応じたキャラクターの進化等にする事で分かり易く表現することができた。また、キャラクターを使用したことで子供に感心を持ってもらうことが期待できる。この取組みで開発した教材は、中学生の防災教育で使用する予定となっている。



大学生考案の危険度を表現

4. おわりに

防災教育の拡大のため、教材パッケージの周知やイメージキャラクターの作成で子供達が防災に関心を持てるよう取り組んでいる。引き続き、学校防災教育の拡大に向けて事業を進めていく。

賛助会員 いであ(株)